

第 1 0 回地区庶務担当理事連絡協議会

と き 平成 23 年 3 月 23 日 (水) 午後 2 時 30 分～

△森会長挨拶

森府医学会は、3月11日の東北地方太平洋沖地震の発生を受けて、12日に対策本部を設置、15日から現在までに計4班の救護医を派遣したことを報告。多くの会員や両大学からの協力を得て、対策本部の活動が進められていることに感謝の意を述べた。

続いて、救護医の活動として、関西広域連合で割り当てられた福島県会津若松市といわき市で救護を行っている現状を示した。その上で、会津若松市内の避難所での救護は一段落したとの状況を報告。日医、東北地方の医師会からの情報を受けて、「今後、被害の甚大な宮城県などへのシフトも視野に入れる必要がある」との見通しを示した。

最後に、避難所の数が膨大であることや、長期に渡る医療・介護支援が想定されることを鑑み、看護協会、薬剤師会とも協力し、全力をあげて支援に取り組みたいとの意気込みを示した。

△報告ならびに協議事項

1. 「東北地方太平洋沖地震」被災者への対応について

(1) 対策本部の活動（救護医派遣状況・出務協力等）について（濱島理事）

濱島府医理事から、会津若松市、いわき市を中心とした救護医の活動状況を報告。現地の医療供給体制は危機的状況ではないとしながらも、宮城県など被害の深刻な地域はまだ多くあるとし、順次救護医を派遣していきたいとした。また、長期にわたり救護医の派遣が及ぶことも想定されることから、派遣にあたっては原発の影響など十分に安全性を確認して行うと強調した上で、引き続き出務協力を求めた。さらに第1次派遣隊が行った検死活動の報告を受け、身元確認の重要性が指摘されたことから、専門性の高い警察医、鑑定医などの出務が求められるとし、要請に応じて協力を依頼した。

安達府医副会長からは、開業医の出務協力について、自院の管理・監督責任や患者の治療や投薬の問題があるとした上で、「原則的に代診は届出が必要であるが、あくまでも今回の震災支援に限定して、届出は不要。ただし、代診医は同府県内の保険医であること」と厚労省医政局の見解を示し、注意を喚起した。

続いて、第2次派遣隊として会津若松市の避難所で救護にあたった北川府医副会長は、被災地の現状として、「ガソリン等の燃料不足が最も深刻である」と印象を述べた。さらに避難所では、高齢者を含めた被災者の疲労がピークに達しているとともに、風邪や慢性疾患、不安、不眠を訴える方が多く、かかりつけ医の機能が求められていると強調した。

最後に、森府医学会からは、安達府医副会長の尽力により、経産省から放射線量データが迅速に届く体制が確保されていることを報告した上で、出向いただく先生の安全に配慮するよう最大限の努力を払うと付け加えた。

地区からは、「内科医のニーズの他に、他科のニーズはあるのか」との質問が出され、北川府医副会長は、小児の診療や感染症対策、精神的なケアなど、ニーズは多岐に渡り、様々な診療科の医師が被災地に赴き、指針を立てることも必要だとした。

(2) 義援金の協力について（森会長）

広域にわたる災害であり、復興には多額の費用が必要との見解から、義援金口座を設けたことを報告。金額にとらわれず、会員各位の協力を求めた。

2. 出産・育児休業における会費減免について（城守理事）

従来からの、疾病、災害等による会費減免に加え、女性医師支援の観点から産前・産後休暇並びに育児休業についても会費減免の対象とすることを報告。

減免申請に必要な書類として、主治医からの出産予定日や出産証明書等（勤務医においては事業主の証明書等）を提出していただきたいとした。（京都医報4月1日号参照）

地区からは、男性医師の育児休業取得の際の対応について質問が出され、森府医会長は、「女性医師支援のために設けられた制度であるが、要望があれば検討する」とした。

3. 最近の中央情勢について（坂東理事）

2月中旬から3月中旬にかけて、TPPをめぐる議論や震災における対応を中心に社会・医療保険状況について説明した。

4. 学術講演会の今後の予定について（小野理事）

4月に予定している京都府医師会学術講演会を紹介し、積極的な参加を呼びかけた。

5. 地区からのご意見・ご要望

【右京】

府医MLで報告のあったように、卸からのチラーヂンSの供給が突然できない事について対処方法を教えてほしい。（安達副会長）

製造販売元の被災により供給不足が懸念されるチラーヂンについて、「通常長期処方されることが多いが、長期投与を自粛し短期的な処方に努めていただきたい」と理解を求めた。

また、同一成分の薬剤を製造する会社からの緊急輸入や、製造委託会社での生産等の対応が進められているとし、供給不足は間もなく解消されるだろうと見通しを示した。

最後に、被災地への医薬品の安定供給を第一に、チラーヂンに限らず医薬品の買占め等がないよう配慮を求めた。

【福知山】

日本医学会総会の集会中止に伴い、日医認定産業医・認定健康スポーツ医研修単位取得について、期間の延長等の対応はあるのか。（森会長）

単位取得について、現在、日医と第28回日本医学会総会とで協議中であり、協議結果が分かり次第、医学会総会のホームページで案内するとの通知が来ていることを報告した。